岡山県高等学校体育連盟サッカー部

記　録　用　紙

確認者	試合責任者	主審	記録責任者
	塚越亮浩	森本　章	佐田晃彦

大会名	令和3年度岡山県高等学校サッカー選手権大会 兼 第100回全国高等学校 サッカー選手権大会岡山県大会	第1日	4 回 戦	令和3年10月16日 11:00	試合時間	80分 延長 (20分)
会場	美作ラグビーサッカー場第2人工芝	天候	晴・(曇)・雨	風	無・(弱)・強	(芝)・土	(良好)・普通・不良	観衆 150人	気温	湿度

試合責任者	塚越亮浩	主審	森本 章（岡山県協会）	副審	渕上典毅（岡山県協会）	副審	中塚啓太（岡山県協会）	第4	大野祐貴（岡山県協会）	記録者	佐田晃彦（勝山高校）

（チーム名）備中　地区

倉敷古城池　高校

kick off　（延長kick off）

0 [0－0 / 0－0 / 0－0 / 0－0 / 4 PK 5] 0

（チーム名）備前　地区

東岡山工業　高校

(kick off)　(延長kick off)

番号	16	14	6	10	8
○×	○	○	○	○	×

先

先

番号	7	2	1	6	11
○×	○	○	○	○	○

交代 No.	交代 時間	シュート数 延長	後半	前半	学年	選手名	番号		番号	選手名	学年	シュート数 前半	後半	延長	交代 No.	交代 時間
2	76分				2	直原 壮	15	GK	1	清綱 永輝	3					
					2	笹岡大輔	3		2	村上 壮真	3	1				
					2	宮畑 校吾	4	DF	4	新山 貫人	3				3	72分
				1	3	宮内 勇人	6		5	蒲原 麻斗	3		1			
					3	神田 幸太郎	8		10	谷口 朝飛	3		1		15	51分
12	99分				2	川内 悠叶	11	MF	6	赤井 隆二	3	1				
			1		2	林 凌永	14		8	佐々井 颯馬	3					
20	82分				2	粟田 佳明	19		9	岸田 壮太	3		1		18	61分
16	63分			1	2	尾下 修斗	21		16	井谷 瑛太	2				14	63分
7	51分				1	立石 大和	22	FW	11	和気 諒太郎	3					
		1	1		3	森本 洸	10		13	秋山 雄星	3				7	HT

交代要員

2	下原 悠希	1	GK	DF	3	木梨 隼	3				
1	小西 琢巳	2	DF	MF	7	秋山 礼伊	3				
1	永下 翔太	5	DF	FW	14	広瀬 蓮大	3				
2	松井 悠聖	7	FW	MF	15	中野 敬斗	3	1			
2	青木 晴紀	9	FW	GK	17	岡村 和樹	3				
2	板谷 直起	12	FW	FW	18	明石 啓志	3	1			
2	金田 拓	13	MF	MF	19	梶 遥斗	1				
2	妹尾 侑哉	16	MF	MF	20	山本 伊吹	1				
2	千葉 智哉	20	FW	DF	21	永瀬 頼輝	3				
1	1	3	2	チーム合計				5	1	0	0
7								6			

	No.	氏名	分	理由	計	延長	後半	前半		前半	後半	延長	計	No.	氏名	分	理由
警・退					2		1	1	GK	1 1	1 1 1	11	7				
警・退					4	11	1	1	CK	111 1			4				
警・退					11	11 11	1 11	1 11 1	直接FK	1 111	1 1	1111	10 13				
警・退					12 1		1		間接FK	1 1	1		3				
警・退					0				PK				0				

理由　不正：著しく不正な行為、 乱暴：乱暴な行為、 つば：つばを吐く行為、 阻止（手）：手による決定機の阻止、
阻止（他）：手以外による決定機の阻止、 暴言：攻撃的侮辱的な言動、 警告2：2度目の警告、 反スポ：反スポーツ的行為、
ラフ：ラフプレー、 異議：判定に異議を示す行為、 繰返：繰り返し違反する行為、 遅延：プレーの再開を遅らせる行為、
距離：規定の距離を守らない、 入：未承認でピッチに入る、 去：未承認でピッチから出る

時間	得点チーム	得点者名	アシスト者名	得点経過

記入例　～：ドリブル、 →：ゴロのパス、↑：浮球のパス、 ×：混戦、 H：ヘディング、S：シュート、
右：右サイド、 左：左サイド、 中：中央

戦評者名（江田大貴）（フルネームで記入）　勤務又は所属（岡山県立林野高等学校）

古城池、東工ともに4－4－2のシステムでスタートした。立ちあがりこそロングボールを多用した両チームだったが、前半の飲水後から4－3－3にシステムを変更した東工がボールを握り、両サイドバック⑤⑫の攻撃参加から中盤に厚みをもたせゴールを目指す。対する古城池は組織的な守備から⑪⑭を中心に速攻を狙う展開となった。後半に入って⑦⑯など積極的な選手交代をした東工が立て続けにチャンスを得たが、決めきれず、徐々に古城池が⑭⑦を中心にサイドを突破し、ゴールへ迫る回数を増やしていった。しかし、お互いに決めることができず、試合は延長戦へと進んだ。延長に入り、古城池⑳がサイドで起点となりゴールを目指したが、試合はPK戦で東工が激戦を制した。敗れはしたが最後まで力に戦い抜いた古城池の新人戦でも活躍を期待したい。